令和7年度 第1回 尼崎市いじめ問題対策審議会 議事要旨

日時 令和7年5月16日（金） 19時00分～21時00分

場所 教育・障害福祉センター3F 教育委員会室

出席者 審議委員7人

会議要旨

1 開会

2 議事

〈再発防止策に関する進捗状況について〉

(1) 令和6年度の再発防止策の評価及び意見について

(2) 令和7年度の再発防止策及び実施予定について

〈委員A〉

事務局から令和6年度の再発防止策の評価及び令和7年度の再発防止策の実施予定を説明いただきましたが、審議会として意見交換をしたいと思います。ご自由に発言していただければと思います。

最初は私からですが、いじめ認知件数が多い学校と少ない学校と、学校規模にもよるのですが、率の差はどうですか。

〈委員D〉

最多の学校と最少の学校は毎年同じですか。

〈委員C〉

データの出し方は最多と最少と比べるとどうしても極端な差がある話で、実際の分布はどうでしょうか。ある程度、(分布は)固まっているのでしょうか。多い、少ないと極端な両端のデータなので分布を見ないとわかりませんね。

おおまかに、いじめ認知件数について学校間格差はなくなっていないですよ。毎年、同じ話を聞いて、同じぐらいの数字を聞いています。感度の鈍い学校が一定数あるということですよ。危険ですよ。手立ては管理職の入れ替えですか。

研修や学校訪問も3年間やっていますよね。そのやり方でうまくいく学校とうまくいかない学校とありますよね。感度が鈍い学校がそこで問題が起こる可能性がありますよね。尼崎全体のリスクになりますよね。尼崎以外にも、感度が鈍い学校は多くなかなか難しいことですよ。研修や学校訪問で感度が鈍い学校に効果があるかどうかですよ。一律の指導ではなく、子どもの指導と一緒に個別の対策が必要かもしれませんね。

見守りフィルターで小学生が「自殺」って調べるのですよね。2～3年前より、増えていますか。前からこのくらい調べているのですよね。何かのきっかけがあって調べているのですよね。

〈委員A〉

自殺に関するキーワードって子どもが使う言葉はいろいろですよ。子どもの目線としたら、もっと違う言葉を使う可能性もあると思います。現場からすると、子どもが使う言葉は変化していくので、大人が思う言葉だけではなく、子どもは別の表現をする可能性があると思います。

〈委員 F〉

見守りフィルターのシステム導入の際に、関連の言葉一覧について説明していただいたと思います。だいぶたくさんある感じですか。そういった検索ワードを入れると、教育委員会に入るってことを子どもたちは知っているのですか。

〈委員 D〉

あまり子どもたちに知られてしまうと、タブレットで検索しなくなるのではないのでしょうか。

〈委員 B〉

連絡が学校に行くと、学校は必ず全部対応しているのですか。生徒と向き合うのですか。対応した後は教育委員会に連絡が入るのですか。報告の連絡を忘れる学校といじめの感度が低い学校とリンクしたらすごいと思ったので質問です。

〈委員 E〉

スクールロイヤーの立ち位置や業務内容についてですが、解釈が分かれていたりするんですけど、尼崎市ではスクールロイヤーはどんな業務をしているのでしょうか。学校がいじめの基本調査をした時の報告書の作成に携わっていますか。

〈委員 C〉

報告書の途中段階でもやっていただいているということですか。学校主体調査のときは専門家が入るべきですけど、表立って入っているわけではないのでしょうか。

〈委員 E〉

今出てきた内容は、学校側の相談が主ですけども子どもの問題が生じて、子どもと子どもの問題で子どもの要請に応じてスクールロイヤーが関わることはないのですか。子ども側からの要請があつて、先生が吸い上げての相談もあるのですか。

〈委員 C〉

子どもと直接、接することは想定していませんよね。直接、子どもとスクールロイヤーが接するニーズはありますか。

〈委員 F〉

直接、子どもとスクールロイヤーがということは、潜在的に無くはないと思いますけど。

〈委員 A〉

その他、何かございますか。では以上で議事を終わらせていただきます。ありがとうございました。進行を事務局にお返しいたします。

3 閉会